

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 4月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0193500030		
法人名	社会福祉法人幸清会		
事業所名	グループホーム みたらの杜		
所在地	〒051-0035 室蘭市絵鞆2丁目2番3号 (電話0143-26-3330)		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年4月23日

【情報提供票より】(平成22年1月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 20 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	16 非常勤 2人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	
その他の経費(月額)	15,000～20,000円	
敷金	有() 円 無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 / 無() 円	
食材料費	朝食 円	昼食 円
	夕食 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円	

(4) 利用者の概要(3月19日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	7名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	名
年齢	平均 82.6歳	最低 71歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きのした内科クリニック、福田歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の高台に、同母体組織の運営するデイサービスセンター・老人福祉施設があり、敷地内にはリビングホームとしての建物内に当事業所であるグループホーム・小規模多機能型居宅介護事業所が併設している。事業所内には、展望サロンが設けられており、室蘭大橋やゆたゆたと広がる山並みや海が眺められ、ゆったりと自然に包まれた環境を満喫することの出来る立地条件を生かした設計となっている。管理者、職員は、一丸となって熱意あるケアサービスの質の向上に取り組んでおり、職員同士のコミュニケーションも大変良く図られており和やかな雰囲気の中、利用者の表情も明るい。家庭的で暖かな印象の事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「地域密着型サービスとしての理念」「地域との付き合い」「評価の意義の理解と活用」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「日常的外出支援」が課題として挙げられたが、管理者、職員の熱意ある取り組みで全て改善に向けてレベルアップされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、前期、後期にわけて管理者を始め職員全員で取り組み、話し合いを重ねて課題を明確にしており、職員の共有化を図って、質の向上に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、事業所の活動報告や自己評価、外部評価の報告を行っている。会議では活発な意見交換がなされ、事業所の運営に反映されている。また、運営推進会議を通じて、町内会との「災害等応援協定書」を交わしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所には家族会があって、家族アンケートを実施し、ポストも設置し、家族からの意見や要望を表出しやすい体制が整えられている。重要事項説明書には第三者機関の苦情、相談窓口が明記されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は町内会に加入し、夏祭り、盆踊り等の町内行事には利用者の体調に合わせて、積極的に参加しており、事業所の行事にも地域の方々をお誘いしている。冬期には事業所の雪かきを手伝ってくださったり、地域との関係は良好である。母体組織の行っているケアケア交流講座へは地域住民の参加もある。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織全体の理念のもと、事業所独自の理念として「地域に根ざし、高齢者への笑顔あふれるケアを提供する」を作り上げ、毎月のユニット会議でも確認し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は小さなカードで全職員が常に確認出来るように携帯するとともに、玄関、スタッフルームにも掲示して共有を図り、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事や老人クラブ活動への積極的な参加を行っている。近隣との関係も極めて良好で、冬の雪かき作業を地域の人が手伝ってくれる事もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価、外部評価の意義を理解し、前期、後期にわけて職員全員で自己評価を行い、日ごろの取り組みに活かす話し合いを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の活動状況、自己評価、外部評価の報告等を行い、活発な意見交換をしてサービスの質の向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者で行き来する機会は多く、事業所の活動状況や入退居状況の報告等を行い、情報交換をしている。介護サービス情報公表、外部評価の報告も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に、利用者のスナップ写真を多く盛り込んだ「ホーム便り」を発行している。利用者の状態変化や受診結果などの電話での報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族来訪時には、気軽に話せる雰囲気作りを心がけている。事業所にはポストを設置し、重要事項説明者には苦情相談受付の第三者機関を明記し、家族アンケートも実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者や家族へのダメージとしないよう職員の異動は最小限にしている。又、利用者の担当職員の継続に配慮し、止むを得ない場合には引継ぎをしっかりと行うよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同母体組織で独自の研修制度を設け、勤務年数に応じた研修を行っている。運営者は、職員の外部研修への参加も促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に参加し、他の事業所との交流を図っている。2ヶ月毎に勉強会を行い、事例発表等も行っている。同母体組織内には、他に三箇所の事業所があり、管理者、職員間の連携も取りあっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所を利用する前には、見学や本人、家族との話し合いを行い、利用者が出来るだけ早く雰囲気馴染めるよう工夫をしている。利用前には家庭を訪問することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と生活を共にする上で人生の先輩として敬う姿勢やお互いに支えあう関係を大切に、仲良く、楽しい暮らしを築くよう努力している。職員は、昔のしきたりや習慣等利用者から教わることも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日々の関わりの中で利用者の思いや意向の把握に努め、表情、態度、言葉、生活歴などを記録に残し、利用者本意のアセスメントを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向や希望の聞き取りを行い情報を集めて記録に残し、ミーティングで確認し、それらの意見を反映させて介護計画を作成している。介護計画は、家族の同意を得てサインをいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、三ヶ月ごとに見直し、利用者の状態に変化のある時はその都度、見直し検討して新しく現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の送迎、医療連携体制を活かした支援など、本人、家族の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、利用前の馴染みのかかりつけ医の受診も家族と相談しながら支援している。事業所では、適切な医療を受けられるよう複数の医療機関と関係を結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、重度化や終末期に向けた指針を作成しており、事業所の利用時に本人と家族に示し、利用者の状態に応じて早い段階から具体的な話し合いを行う体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応を行い、プライバシーを損ねないように心がけている。排泄等の誘導もさり気なくそっと行い、記録も個人情報保護法を遵守した取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では、基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切にし、日々ゆったりと安心した暮らしが出来るよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の力量や好みに応じて野菜きざみをしたり下膳、茶碗拭きなどを一緒に行っている。職員も同じテーブルにつき話しかけながら食事の介助をしたり、食事摂取を促したりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じ、曜日、回数、時間帯に関わらず支援している。同一建物内の小規模多機能のゆったりした浴室も使用している。入浴嫌いの方でも週2回を目途に入浴を支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の張り合いや喜びに繋がる過ごし方を工夫し、一人ひとりの好みや生活スタイルを把握して、花の水やり、家事、趣味などの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同母体組織の広い敷地の散歩や、ドライブ、買物、果物狩りなど外に出る機会を多くする生活を工夫し取り組んでいる。地域行事やお祭りなどへの参加も多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中かけていない。外に出るときは一緒について行くよう配慮をしている。非常口の鍵は、ドアの上下にあり、ロックはしていない。開けるとセンサーが作動して音楽が流れ、職員に感知出来るようになっている		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難マニュアル・非常連絡網・防災管理規定・防災計画の作成はもちろんのこと、日中と夜間を想定した訓練を年2回実施しており、実施後も参加者のみならず他のものが見ても分かりやすいように詳細を記録し資料として残している。更に、町内会と隣接施設において災害時等相互応援協定書を交わし応援体制も整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量など一人ひとりのチェック表を記録し体調やその人の食習慣などを考慮した支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、和室風にしつらえたコーナーがあって昼寝や座って談話することができる。壁には生活感や季節感のある飾りがほどこされ家庭的雰囲気である。窓からは、海やゆったりと広がる遠い山並みが眺められる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、敷物、ベットなど好みの使い慣れたものを持ち込み、その人らしい居室になっている。利用者が自由にゆっくりと過ごせる工夫がなされた居室となっている。		

※ は、重点項目。